

に發揮するかがいくさに勝つ要諦である。大東亞戦争が建設戦争といはれる理由もここにあるのであつて、われわれは建設しつづくさをすすめてゆかなければならない。占領した地域はただちに建設に着手して、ここから人的・物的の戦争資材を生み出し、戦ふ力を一層強靱にして、さらに武力を行使してゆくといふふうに戦争をすすめてゆかなければならないのである。

かく見る時は、大東亞共榮圏の建設といふことは明らかに戦争の一分野となつてくる。共榮圏が理想的に強力に建設されて、わが國の生産力ないしは生産力を含めた綜合戦力が、日に新たに強大になつてゆくときは、勝利はすでにその中に生れてくるのであつて、これを土臺にして忠勇無比の皇軍がいくさをすすめてゆけば、まったく鬼に金棒である。したがつて、南方の占領地帯を中心とする共榮圏の建設といふ題目が、いち早く取りあげられてゐるのは當然のことである。

すでにわれわれは日・滿・支を緊密に結びつける共榮圏建設の中核體をもつてゐ

た。そこに今度はこの中核體の中に少なかつた石油とか、ゴムとか、ボーキサイトといふやうな有力な戦争資材を豊富に持つた南方地域が参加してきたのだから、まったく前途は洋々たるものがある。大東亞建設審議會が昭和十七年の春シンガポール陥落後の新事態に對處してすでに八部門に互る南方建設の答申を決定し、政府に具申したのも、かかる立場の現れであり、また昭和十七年十一月一日から店開きした大東亞省の使命も、その最高目標を共榮圏の建設においてゐることは、ここに強調するまでもない。

かくのごとく大東亞共榮圏の建設は、大東亞戦争の一分野であつて、われわれはなるべく早く、またなるべく理想的に共榮圏の建設工作をすすめてゆかなければならないが、では一體どういふふうに建設をすすめてゆくかといふことになると、いろいろな關係から、なかなかむづかしく、ここにまづ総合的な調査と計畫が必要となつてくるのである。地域別に、または物資別に、個々ばらばらに建設や開發がす